

原 著

格魯布性肺炎患者ニ於ケル 「ツベルクリン・アレルギー」

東京警察病院内科

醫學博士 坂 本 秀 夫
日大醫學士 唐 澤 肇

人體ノ結核感染ニヨツテ發生セル「ツベルクリン・アレルギー」ハ、重症肺結核、粟粒結核、結核性腦膜炎、及ビ其他ノ重症疾患ニヨリテ惡液質ノ來レル場合ニ於テ、屢々消失スルニ到ル事ハ周知ノ事實ナリ(陰性「アレルギー」、V. Hayek)。

尙ホ麻疹(v. Pirquet, Preisich)猩紅熱(Rolly, Moltchanoff)「インフルエンザ」(Schiff, Berliner)腸「チフス」(Rolly, Krannhals, 高須、大住及ビ山大路)等ノ急性傳染病ニ罹患セル際、其ノ病狀ニヨリ有熱期ニ於テ屢々ビルケー氏反應消失スルニ到ル報告アリ(非特異性或ハ特發性一時的「アレルギー」)。格魯布性肺炎ニ就テハ、Nothmann, Rollyノ報告ニヨレバ、ビルケー氏反應ハ屢々有熱期ニ於テ陰性ニシテ恢復期ニ於テ陽性トナル事アリト云フ。Nothmannハ僅ニ1例ニ就テ報告シ、Rollyノ報告モ簡單ニシテ解熱後幾日目頃ヨリ陽性トナルヤノ記載ナシ。

余等ハ昭和6年以來、40例ノ格魯布性肺炎患

者ニ就テ、其ノ臨牀的經過ヲ追ヒテ有熱期間及ビ無熱期間ニ於テ、マンツー氏反應ヲ反復試験シ、同時ニ血液所見就中白血球數及ビ赤血球沈降速度ヲ検査セルヲ以テ茲ニ其ノ成績ヲ報告スベシ。

實驗方法。

(1) マンツー氏反應及ビ赤血球沈降速度検査方法ハ、余等ノ「ツベルクリン・アレルギー」ニ關スル研究第一報ニ記載セル方法ニヨレリ。マンツー氏反應検査ノ際丘疹幾種ヲ以テ陽性、陰性ヲ決定スルヤニ就テハ、報告者ニヨツテ相違アレドモ、余等ハ茲ニハ單ニ便宜上舊「ツベルクリン」千倍液0.1 氈皮内注射後無反應ノモノヲ陰性トシ、丘疹0.5 種以上ヲ呈スルモノヲ陽性トナシ、記載ハ凡テ丘疹ノ直徑ヲ種ニテ讀ミタル數ヲ以テセリ。

(2) マンツー氏反應検査間隔ハ凡ソ1週間トセシガ、場合ニヨリ其ノ間隔短キモノ或ハ長キモノアリ。

第一章 同一肺炎患者ニ就キ有熱期及無熱期ニ於テ、 マンツー氏反應ヲ反復検査セル成績

男女合計 16 例ノ格魯布性肺炎患者ニ就テ、發病後有熱期ノ最モ速キハ2 日目、最モ遅キハ 10

日目、又解熱後最モ早キハ1 日目、最モ遅キハ 21 日目ニ於テ検査セルアリ。其ノ成績次ノ如

シ。

第一項 有熱期ニ於テマンツ一氏反應

陰性ニシテ解熱後陽性トナリタルモノ

9例(56.3%)アリ(第一表)。

解熱後幾日目ニ於テマンツ一氏反應陽性トナルヤハ、患者ニヨリ、其ノ病狀ニヨリ、又検査間隔ノ相違ニヨリ此ヲ斷言スル事ヲ得ザルハ勿論ナレドモ、最も早キハ解熱後1日目(第1例)、最も遅キハ、21日目(第2及第7例)ニ於テ陽性トナレリ。他ノ大部分ノ患者ハ解熱後2日目

ヨリ12日目ノ間ニ於テ陽性トナレリ。

マンツ一氏反應ノ程度ヲ見ルニ、有熱期ニ於テハ何レモ全ク反應ヲ呈セズ。無熱期ニ於テハ丘疹0.6糎ヲ呈シタル1例(第3例)ヲ除キ他ノ大部分ノ患者ハ凡テ1糎以上ノ陽性反應ヲ呈セリ。

9例中僅ニ1例(第5例)ニ於テハ無熱期ニ於テマンツ一氏反應陽性トナリシ時期ニ於テ、尙ホ白血球過多症存シ、他ノ2例(第4及第9例)ニ於テハ肺膿瘍ヲ併發セシタメ白血球過多症存

第一表 有熱期ニ於テマンツ一氏反應陰性、解熱後陽性トナリタルモノ

例症	姓名	性	年齢	病竈	検査日	病日	解熱後日	體温(検査日最高)	有期熱間	マンツ一氏反應	赤沈速度	肺炎菌型	合併症	白血球	結膜炎及既肋往
1		♂	36	右上葉	1/4 4/4	1931	7 10	40°4 37°	9	0 1.2				19000 5100	濕性 肋膜炎
2		♂	43	左下	5/5 29/5	1932	5 29	38°7 37°5	9	0 1.2		II 淋菌性關節炎(13/V)		6600 6600	ナン
3		♀	18	右上	18/5 20/5 23/5	1932	6 8 11	39°9 36°7 36°5	7	0 0 0.6	62 65			8600 8800 5600	ナン
4		♂	33	左上	11/11 21/11 2/12 15/12	1932	8 18 29 42	37°7 36°6 36°5 36°6	8	0 1.7 1.2 1.5	13		左濕性肋膜炎(12/11) 肺膿瘍(25/11)	15200 10400 9600 8000	ナン
5		♂	59	右下	4/2 9/2 20/2 29/2	1933	5 10 21 28	38° 36°5 36°2 36°5	8	0 1.5 2.0 2.0	48 30 10	IV		26900 27200 9300 8000	ナン
6		♂	33	兩下	20/2 27/2 7/3	1933	9 16 24	38°1 37°2 37°	9	0 1.5 1.8	76 53 27	IV		13400 7600 7700	ナン
7		♀	30	右下、 左下	4/3 12/3 18/3 21/3 30/3	1933	2 10 16 19 28	39°3 36°5 36°9 37°1 <37°	6	0 0 0 0 1.8	43 64 27	III	左中耳炎(10/III)	13600 18600 12700 7800 7400	ナン
8		♂	26	左下	9/3 16/3 30/3	1933	5 12 26	39° 36°8 36°8	7	0 1.3 1.0	32 22	III		38200 9600 8700	右肺門 腺結核
9		♂	26	左下、 右上	12/4 19/4 27/4 5/5 13/5	1933	5 12 20 27 35	39° 37°7 38°6 38°9 39°3	8	0 0 1.3 1.2 1.2	34 40 43 48 51	IV	肺膿瘍(19/4)	7800 11600 10400 15200	右濕性 肋膜炎

セシガ、ソノ他ノ例ニ於テハ皆白血球數ハ正常トナレリ。

有熱期マンツ一氏反應陰性ナリシ時期ニ於テハ通例白血球過多症存スレドモ、白血球數正常ナリシモノ3例(第2、第3及第7例)アリ。

赤血球沈降速度ハ何レノ例ニ於テモ未ダ正常ニ恢復セザル時期ニ於テ既ニマンツ一氏反應ハ陽性トナレリ。

一旦解熱後併發症トシテ肋膜炎、肺膿瘍及ビ淋菌性關節炎ニ罹患シ、タメニ熱發セルモノ(第2

及び第9例) アリタレドモ、マンツー氏反應一旦陽性トナリシモノガ、是等ノ併發症ニヨル熱發ノタメニ更ニ陰性トナリタルモノナシ。

マンツー氏反應發現ノ遲速ト有熱期間ノ長短及ビ病竈ノ大小トノ間ニハ明カナル關係ヲ認メザリキ。

是等格魯布性肺炎患者ニ就テハ、肺炎罹患前ノマンツー氏反應検査成績不明ナルヲ以テ、本疾患ノ極期ニ於テ陰性ニシテ恢復期ニ於テ陽性トナリタルハ、本疾患ノ影響ニヨルモノニ非ズシテ、結核感染ノ時期的關係上從來陰性ナリシ「ツベルクリン・アレルギー」ガ、偶然肺炎ノ恢復期ニ於テ出現スルニ到リタルハ非ズヤトノ疑問ヲ插ム餘地存スルガ如クナレドモ、斯ク多數ノ肺炎患者ノ極期ニマンツー氏反應陰性ナリシ

事ハ、偶然ノ事實トハ解シ難シ。ノミナラズ第8例ハ肺浸潤、第1及ビ第9例ハ濕性肋膜炎ノ既往症ヲ有スル事ハ斯カル考察ノ正當ナラザル事ヲ證スルモノト云フベシ。從ツテ恐ラク發病前既存セシ「ツベルクリン・アレルギー」ガ、肺炎ニ罹患スルト同時ニ非特異性ニ一時陰性トナリ、解熱後恢復期ニ向フニ從ツテ發病前ノ「ツベルクリン・アレルギー」ヲ獲得シタルモノト考フル事ハ失當ナラズト信ズ。

第二項 有熱期ニ於テマンツー氏反應陰性ニシテ無熱期ニ於テ依然トシテ陰性ナリシモノ。2例(12.5%)アリ(第二表II)。2例トモニ結核及ビ肋膜炎ノ既往症ナシ。從ツテマンツー氏反應ハ發病前ヨリ陰性ナリシモノカ、或ハ發病後陰性トナリシモノカ不明ニシ

第二表 (I) 有熱期ニ於テマンツー氏反應陽性、解熱後陽性ナリシモノ

症例	姓名	性	年	病竈	検査日	病日	解熱後病日	體溫	有熱期間	マ氏反應	赤沈速度	肺炎菌型	合併症	白血球數	結核及肋膜炎ノ既往症
10		♂	37	左下	11/2 18/2 27/2	1933 4 11 20	1933 4 5 14	39°3 36°7 36°9	6	1.0 1.0 1.3	46 37			18600 8000 7600	兩側濕性肋膜炎
11		♀	27	右上、 右下	4/4 23/4 4/5	1931 6 25 36	1931 6 15 26	39°8 37°2 36°8	10	1.5 0.5 1.0		I		17000 5400	ナシ
12		♂	30	左下、 右上	20/2 27/2 7/3 29/3	1933 10 17 25 47	1933 10 4 12 36	39°8 36°8 36°5 36°7	13	0.5 0.5 1.5 1.3	79 18 8	IV		14900 6900 9800	ナシ
13		♂	38	左下	19/2 25/2 7/3	1933 8 14 24	1933 8 5 15	37°7 36°6 36°7	9	0.5 2.0 1.7	68 37 26	I		14700 8500 5100	ナシ
14		♂	34	右中	3/3 11/3 19/3	6 14 22	6 8 16	37°2 36°4 36°6	6	0.5 1.0 1.3	41 6			30000 5900 6600	ナシ

(II) 有熱期マンツー氏反應陰性、解熱後陰性ナリシモノ

15		♂	29	右下	2/2 19/2 5/3	1931 7 22 37	1931 7 13 28	40°4 36°9 36°8	8	0 0 0	80 10			11500 6700	不明
16		♂	28	左下、 右下	22/3 30/3 9/4 20/4 28/4 7/5	1933 6 14 24 36 44 55	1933 6 2 12 24 32 43	41° 37°6 37°3 37°1 36°9 37°	12	0 0 0 0 0 0	89 74 68 23 6			14800 14900 6200 6700	ナシ

テ、1例(第15例)ハ、肺炎罹患後37病日、解熱後28日目に於テ尚ホ陰性、他ノ1例(第16例)ハ第55病日、解熱後43日目に於テ尚ホ陰性ニシテ、何レモ白血球數正常トナリ赤血

球沈降速度モ殆ド正常トナリシニ拘ラズマンツー氏反應陰性ナリキ。退院後マンツー氏反應ヲ追究スル事能ハザリシハ遺憾ナリキ。

第三項 有熱期ニ於テマンツー氏反應陽性、

無熱期ニ於テモ亦陽性ナリシモノ
5例(31.2%)アリ(第2表I)。
何レモ有熱期ニ於テ白血球過多症アリ。且ツ赤
白血球沈降速度促進セル時期ニ於テ陽性ニシテ、
1例(第10例)ハ無熱期ニ於テモ有熱期ト殆ド
同一程度ニ反應シ肋膜炎ノ既往症アリ。1例(第

11例)ハ解熱後一旦微弱反應ヲ呈シ、後ニ有熱
期ニ近キ陽性反應ヲ呈セリ。他ノ3例(第12、
及14例)ハ有熱期ニ於テ微弱反應ヲ呈シ解熱
後其ノ反應增強シ陽性反應ヲ呈セリ。有熱期陽
性ニシテ無熱期ニ於テ陰性トナリタルモノ無
シ。

第三表 有熱期ニ於テノミ マンツ－氏反應ヲ検査シ陰性ナリシモノ

症例	姓名	性	年	病竈	検査日	病日	解熱 後病日	體温	有熱 期間	マ氏 反應	赤沈 速度	肺炎 菌型	合併症	白血 球數	結核及肋 膜炎ノ既 往症
17		♂	35	左上、左下	23/4 1931	8		38°7	10	0				11000	濕性肋膜炎
18		♀	26	右下	15/2 1931	9		37°5	11	0	89	IV		12000	不明
19		♂	38	右下右上、	6/2 1931	7		39°5	死亡	0				11000	ナシ
20		♂	44	右上	19/3 1932	7		38°9	死亡	0	92			13000	ナシ
21		♂	78	左下、左上	8/5 1933	8		38°7	死亡	0	90			12000	不明
22		♀	58	左下	2/6 1933	8		38°7	死亡	0	90	III	子宮筋腫 肺炎菌腹 膜炎	26800	ナシ

第二章 有熱期ニ於テノミマンツ－氏反應ヲ検査セルモノ

肺炎罹患後有熱期ニ於テノミマンツ－氏反應ヲ
検査シ無熱期ニ於テ検査スル能ハザリシモノ6
例アリ(第3表)、凡テ全ク陰性ナリ。就中死亡
セルモノ4例(第19、20、21及22例)アリ。

此ノ4例ノ患者ハ入院當初ヨリ重症ニシテ赤血
球沈降速度モ亦著シク促進セリ。其ノ経過ヨリ
陰性「アレルギー」(v. Hayek)ト考フル事ヲ得
ベシ。

第三章 マンツ－氏反應ヲ有熱期ニ於テ検査セズシテ
無熱期ニ於テ検査セルモノ

解熱後入院セルカ、或ハ有熱期ニ入院セルモ都
合ニヨリ、マンツ－氏反應ヲ有熱期ニ検査スル
事ヲ得ズシテ無熱期ニ検査ヲ行ヘルモノ18例
アリ。其ノ成績次ノ如シ。

第一項 解熱後早期ニマンツ－氏反應
陰性ニシテ後一定期間ヲ經テ陽性トナ
リタルモノ、6例アリ(第4表)。

解熱後幾日目ニ於テマンツ－氏反應陽性トナリ

第四表 解熱後早期ニマンツ－氏反應陰性ニシテ、後ニ陽性トナリタルモノ

症例	姓名	性	年	病竈	検査日	病日	解熱 後病日	體温	有熱 期間	マ氏 反應	赤沈 速度	肺炎 菌型	合併症	白血 球數	結核及肋 膜炎ノ既 往症
23		♂	35	右下	26/3 1932	7	1	37°1	6	0	67			15900	ナシ
					30/3	11	5	36°9	2.0	61		7600			
24		♂	30	左肺	4/4 1932	12	2	37°	10	0	68			12900	
					11/4	19	9	36°2	1.0	23		9600			
25		♀	18	右上	30/3 1933	8	1	36°7	7	0	84			20700	
					5/4	14	6	36°5	0.3	9500					
					9/4	18	10	36°8	1.0	19		9500			
26		♂	21	右下	20/2 1933	9	1	37°1	8	0	50			12500	
					29/2	16	8	36°8	1.2	6000					
					7/3	24	16	36°8	1.2	7600					

27	↑	29	右下	13/4	1933	7	1	36°6	6	0	86	II	右耳下腺炎 28/4	22000
				17/4		11	5	37°1		2.2	69			14200
				27/4		21	15	38°		1.3	65			7700
				5/5		29	23	38°		1.2				7800
28	↑	29	左下	13/4	1933	7	1	37°	6	0	88	II		10400
				17/4		11	5	36°5		0.5	75		10100	
				27/4		21	15	36°7		1.0	53		8600	
				5/5		29	23	36°7		1.0	47		8800	

シヤハ、1章第1項ニ於テモ述ベシガ如ク正確ニハ不明ナリト雖モ、解熱後1日目或ハ2日目ニハ陰性ニシテ5日目乃至10日目ニ於テ陽性トナレルモノ多シ。マンツ一氏反應陽性トナリシ時期ニ於テハ、第27例ノ併發症アリシモノヲ除キ著シキ白血球過多症ナシ。赤血球沈降速度ハ未ダ正常ニ恢復セザリキ。

是等ノ患者ノ有熱期ニ於ケルマンツ一氏反應ハ不明ナレドモ、1章第3項ニ於テ述ベシガ如ク、有熱期ニ於テ陽性ニシテ無熱期ニ於テ陰性トナリタルモノハ1例モ無キヲ以テ、恐ラク有

熱期ニ於テモ、マンツ一氏反應陰性ニシテ1章第1項記述ノ患者ト同一經過ヲトリタルモノト推定スル事ヲ得ベシ。

第2項 無熱期ニ於テ陰性ニシテ其儘退院セルモノ

6例アリ(第5表)。解熱後1週以上ノモノ2例、3週以上ノモノ4例アリ。有熱期ニ於ケルマンツ一氏反應ハ不明ナリ。前述ノ如クマンツ一氏反應有熱期陽性ニシテ無熱期ニ於テ陰性トナリシモノハ1例モナキヲ以テ、是等ノ患者ニ於テモ恐ラク有熱期

第五表 解熱後マンツ一氏反應陰性ニシテ退院時迄陰性ナリシモノ

症例	姓名	性	年	病竈	検査日	病日	解熱後病日	體温	有熱期間	マ氏反應	赤沈速度	肺炎菌型	合併症	白血球數	結核及肋膜炎ノ既往症	
																度
29		↑	45	右上、右下	8/4 23/4	1931	19 34	7 22	37°5 37°1	12 0	0 62			12900 9600	不明	
30		♀	51	右上、右下	23/4 4/5	1931	20 31	12 23	37°2 36°7	9 0	0 0	I		5600 6050		
31		♀	22	左下	20/2 27/2	1933	7 14	2 9	36°6 36°9	5 0	0 0	63		12400 7300		
32		♀	58	右下	29/3 31/3 5/4	1933	15 17 22	4 6 11	36°4 36°5 36°9	12 0 0	0 0 0	III	黄疸	9400		
33		♀	31	右下、右上	15/3 19/3 5/4		9 13 30	1 5 22	37° 38° 37°9	7 0 0	0 0 0		濕性肋膜炎(20/III) 肺膿瘍(27/III)	16800 11200		
34		↑	20	右下、左下	13/4 20/4 27/4 5/5	1933	10 17 24 32	1 8 15 21	36°7 37° 36°5 36°6	9 0 0 0	0 34 0 0	67 74	II		14500 12800 8500	ナシ

マンツ一氏反應陰性ナリシモノト推定スル事ヲ得ベシ。發病前ヨリ陰性ナリシカ或ハ發病後陰性トナリシモノカハ全ク不明ナリ。1例(第33例)ニ於テハ肋膜炎及ビ肺膿瘍ノ合併症アリキ。退院後ノマンツ一氏反應ヲ追究スル事能ハザリシハ遺憾ナリキ。

第三項 無熱期ニ於テ陽性トナリシモノ

6例アリ(第6表)。解熱後1日目ノモノ2例、4日目ノモノ2例、2週以内ノモノ2例アリキ。マンツ一氏反應有熱期ニ於テ陰性ナリシモノカ、或ハ陽性ナリシモノカハ全ク不明ナリ。6例中3例ニ於テハ白血球過多症アリ。其ノ中ノ1例(第39例)ハ肋膜炎及ビ肺膿瘍ノ合併症アリ。残りノ3例ニ於

テハ白血球數正常ナリキ。

要之有熱期ニ於テマンツー氏反應ヲ検査セル 22 例中陰性ナリシモノ 17 例 (77.3%) 陽性ナリシモノ 5 例 (22.7%) ナリ。無熱期ニ於テ檢

査セル 34 例中退院時迄陰性ナリシモノ 8 例 (23.5%)、他ノ 26 例 (76.5%) ハ陽性ニシテ陰性ヨリ陽性トナリシモノカ或ハ始メヨリ陽性ナリシモノナリ。

第六表 解熱後マンツー氏反應陽性ナリシモノ

症例	姓名	性	年	病竈	検査日	病日	解熱後病日	體温	有熱期間	マンツー氏反應	赤沈速度	肺炎型	合併症	白血球數	結核及肋膜炎既往症
35		♂	45	左上	21/4 1931 23/4	7 9	1 3	36°4 36°4	6	1.7 1.6	20			10300	乾性肋膜炎
36		♂	31	右下	23/4 1931 4/5	14 25	4 15	36°7 36°9	10	1.0 1.4				15600	
37		♂	22	右上	28/11 1931	5	1	37°	4	1.0				6700	
38		♂	50	右下、左上	19/11 1932	17	4	36°8	14	1.6		II		7100	
39		♂	40	左下、右上	11/11 1932	21	11	36°8	10	1.0	16	II	濕性肋膜炎 (7/XI) 肺膿瘍	14300 13000 8700 11600	
40		♂	32	左下	7/3 1933	11	3	37°1	8	2.0	63		中耳炎、左濕性肋膜炎 24/II	8000	
					16/3 27/3	20 31	13 24	37° 37°1		1.5 1.8	52			6300	

考察

格魯布性肺炎ニ罹患スレバ屢々有熱期及ビ解熱後早期ニ於テ非特異性ニ一時的「アチルギー」ヲ招來シ、恢復期ニ於テ陽性トナルコト、麻疹、猩紅熱、及ビ腸「チフス」等ノ急性傳染病ニ於ケル報告ト凡ソ同様ナリ。

人體ノ「ツベルクリン・アレルギー」ハ、結核疾患以外ノ妊娠、貧血、栄養不良、植物性神經異常及ビ其他諸種ノ條件ニヨツテ影響セラレタルモノニシテ、肺炎患者ニ於テハ、マンツー氏反應ハ有熱期陰性ニシテ、無熱期陽性トナルモノ多シト雖モ、余等ノ接種「マラリヤ」患者ノ熱發期ニ於ケルマンツー氏反應検査成績 (未發表) 及ビ肺炎恢復期ニ於テ合併症ノタメ熱發ヲ起セシ場合ニ於ケルマンツー氏反應検査ニヨツテ明カナルガ如ク、單ニ熱ソノモノハ該反應ニ左程著シキ影響ヲ及ボスモノニ非ズシテ、發熱當時ニ於ケル本疾患ノ病的機轉ニヨル身體ノ變調ガ一時的「アチルギー」ノ主因タルモノナルベシ。

Rolly ハ急性傳染病殊ニ麻疹、猩紅熱ノ如キ發疹性疾患極期ニ於テピルケー氏反應陰性ナル原

因ヲ單ニ皮膚機能ノ變化ニ歸セリ。

v. Pirquet ハ麻疹ノ際、時ニ肺結核ガ再燃シ且ツピルケー氏反應陰性ナル原因ヲ結核ニ對スル免疫抗體減弱セルタメナリト解釋シ、Sonak ハ麻疹兒童ノピルケー氏反應陰性期ニハ全血液中ノ結核菌ノ増殖佳良ナリト報告セリ。高須氏ハ腸「チフス」有熱期ニ於テピルケー氏反應陰性ナルハ結核菌抗體ノ減少ニ基クモノナルベシト述ベタリ。

肺炎ノ有熱期ニ於テハ一般ニ身體ノ抵抗力ノ減退ヲ來シ、大多數ノ患者ニ於テハ皮膚ノ反應性ハ著シク減退シ非特異性ニ一時的「アチルギー」ヲ招來シ、解熱後恢復期ニ向フニ從ツテ身體ノ抵抗力増進ト共ニ皮膚ノ反應性モ増進シ、「ツベルクリン」反應陽性トナルモノナルベシ。

肺炎ノ極期ニ於テ、「ツベルクリン」ノミニ對シテ反應性ノ減退或ハ消失ヲ來スヤ否ヤハ頗ル疑問ニシテ他ノ「アレルギー」ニ對スル反應性モ減退スル可能性アルヲ以テ、肺炎患者ニ對シテ斯カルモノヲ使用セントスルニ當リテハ此ノ事實ヲ考慮中ニ加フルノ要アリ。

「ツベルクリン・アレルギー」ト結核免疫トハ互ニ並行スル場合ト然ラザル場合トアリ。肺炎患者ノ有熱期及ビ解熱後早期ニ於ケル一時的陰性「アチルギー」ト結核免疫トノ關係如何ニ就テ考察スルニ、肺炎ノ有熱期ニ於テ、v. Hayek ノ陰性「アチルギー」即チ非免疫性「アチルギー」ヲ示シタルモノ4例アリシ事實ヨリ考フレバ、肺炎患者ニ於ケル一時的陰性「アチルギー」ハ、結

結 論

(1) 格魯布性肺炎患者 22 例ニ就テ、其ノ有熱期ニ於テマンツー氏反應ヲ試験セルニ、全ク陰性ナリシモノ 17 例(77.3%)、陽性ナリシモノ 5 例(22.7%)ナリキ。

(2) 格魯布性肺炎患者 34 例ニ就テ、其ノ無熱期ニマンツー氏反應ヲ検査セルニ陰性ナリシモノ 8 例(23.5%)ニシテ、他ノ 26 例(76.5%)ハ陽性ナリ、而シテ後者中一ハ陰性ヨリ陽性トナリシモノト始メヨリ陽性ナリシモノト存ス。

(3) 同一肺炎患者 16 例ニ就テ、無熱期迄マンツー氏反應ヲ反復試験セルニ、有熱期陰性ニシテ無熱期ニ於テ陽性トナリシモノ 9 例(56.3%)、依然トシテ陰性ナリシモノ 2 例(12.5%)、有熱期及ビ無熱期ニ於テ陽性ナリシモノ 5 例(31.2%)ナリキ。

(4) 解熱後マンツー氏反應陽性トナリシ 15 例(第1表及第4表参照)中
解熱後 1 乃至 4 日目ニ陽性トナリシモノ 2 例

核ニ對スル抵抗力減退ヲ想像シ得レドモ、余等ハ之ニ就テハ斷定ヲ下スベキ實驗の根據ヲ有セズ、進ンデ Sonak ガ麻疹患者ニ於テ行ヒシガ如ク、肺炎患者ニ就テ Wright ノ結核菌増殖試験或ハ肺炎罹患中結核再燃及ビ結核感染ノ頻度ニ關シテ臨牀の研究ヲ積ミシ後斷定ヲ下ス必要ヲ認メルモノナリ。

解熱後 5 乃至 9 日目ニ陽性トナリシモノ 7 例
解熱後 10 乃至 15 日目ニ陽性トナリシモノ 4 例
解熱後 21 日目ニ陽性トナリシモノ 2 例ナリ。

(5) 解熱後マンツー氏反應陽性トナリシモノガ肺膿瘍、肋膜炎等併發シ熱發ヲ來スモソレガタメ該反應ノ更ニ陰性トナレルモノナシ。

(6) 上述ノ如ク格魯布性肺炎ニ際シテハ、其ノ有熱期或ハ解熱後早期ニ於テマンツー氏反應ノ減退乃至消失ヲ見ルニ到ル事多ケレドモ、大多數例ニ於テハ解熱後短時日内ニ該反應ノ出現又ハ増強ヲ見ルニ到ルモノナリ。而シテ本反應消失ノ原因ハ單ニ體溫ノ上昇ノミニ歸スベキモノニ非ズシテ本疾患ノ爲メニ起レル身體ノ變調ニヨルモノナルベシ。

稿ヲ終ルニ臨ミ、恩師稻田教授及ビ東京警察病院院長坂口助教授ノ御懇篤ナル御指導ト本稿御校閲ノ勞ヲ衷心ヨリ感謝シ、醫長鹽澤講師ヲハジメ内科諸兄ノ御好意ヲ深謝ス。

主要文獻

- 1) v. Hayek, Das tuberkulöse Problem, 1923.
- 2) v. Pirquet, Dtsch. med. Wschr. Nr. 30. S. 1297. 1903.
- 3) Preisich, Zit. nach Pirquet.
- 4) Rolly, M. m. W., Nr. 44. S. 2275, 1910.
- 5) Moltschanoff, Jb. Kinderheilk. Bd. 75. S. 435, 1912.
- 6) Schiff, Mschr. Kinderheilk. 13Bd. 15, 1918.
- 7) Berliner, Dtsch. med. Wschr. Nr. 9, S. 228, 1919.
- 8) Krannhals, M. m. W., Nr. 16. S. 836, 1910.
- 9) 今村荒男, 診断ト治療. 第 18

- 卷第 7 號. 10) 高須正末, 日本傳染病學雜誌. 昭和六年二月號.
- 11) 大住山大路, 今村氏ニヨル.
- 12) Nothmann, Arch. Kinderheilk. Bd. 53. S. 146, 1610.
- 13) 唐澤肇 「ツベルクリン・アレルギー」ニ關スル研究第一報. 東京醫事新誌. 昭和八年二月號.
- 14) Sonak, Zentbl. f. Bakt. Orig. Bd. 115, 1929.
- 15) Wright, Lancet, Vol. I, 1924.
- 16) Lange, Kl. W. Nr. 49, 1932.